

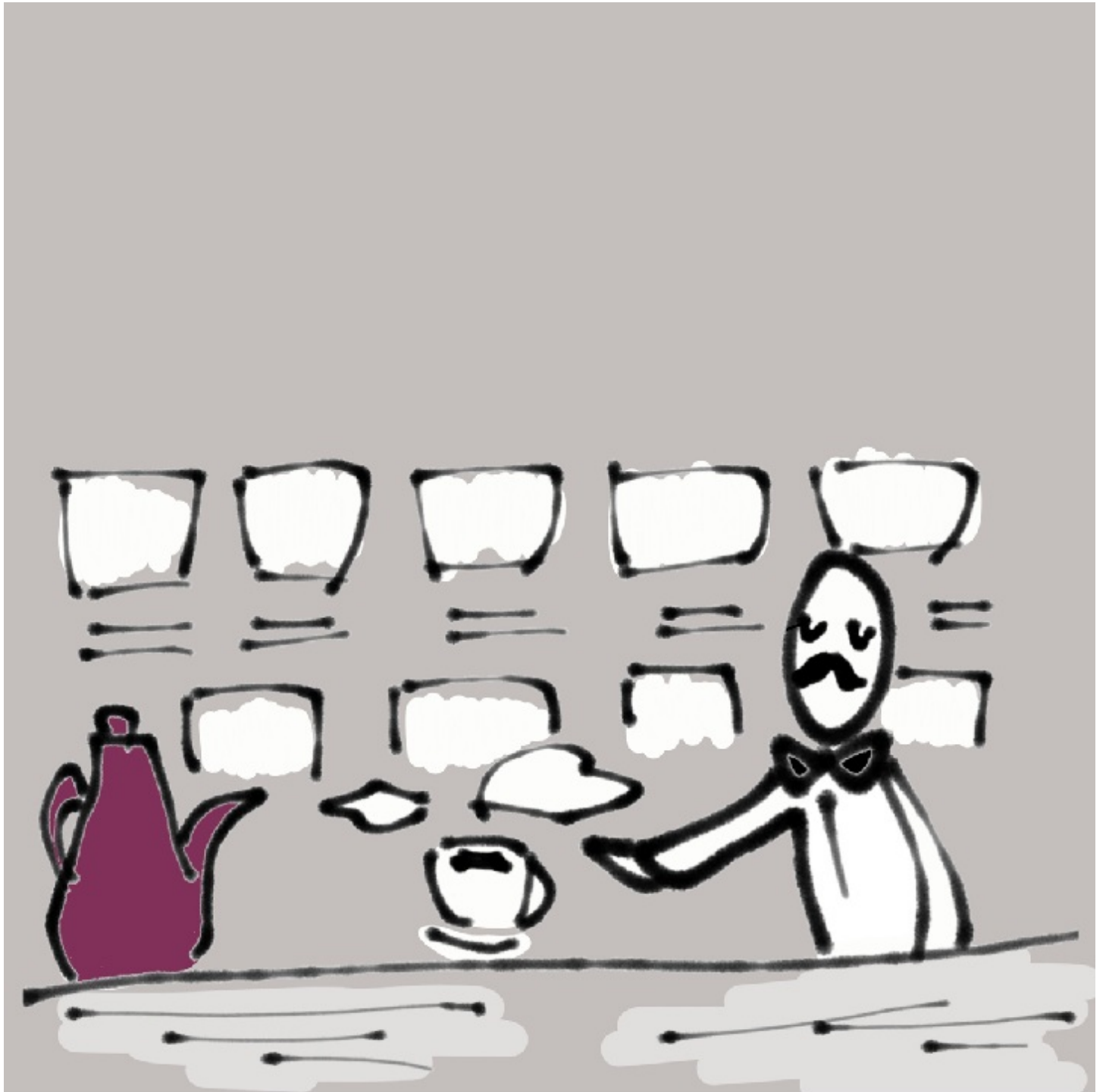
影屋



絵と文 ・ R e i K a

路地裏の喫茶店には影屋がある。





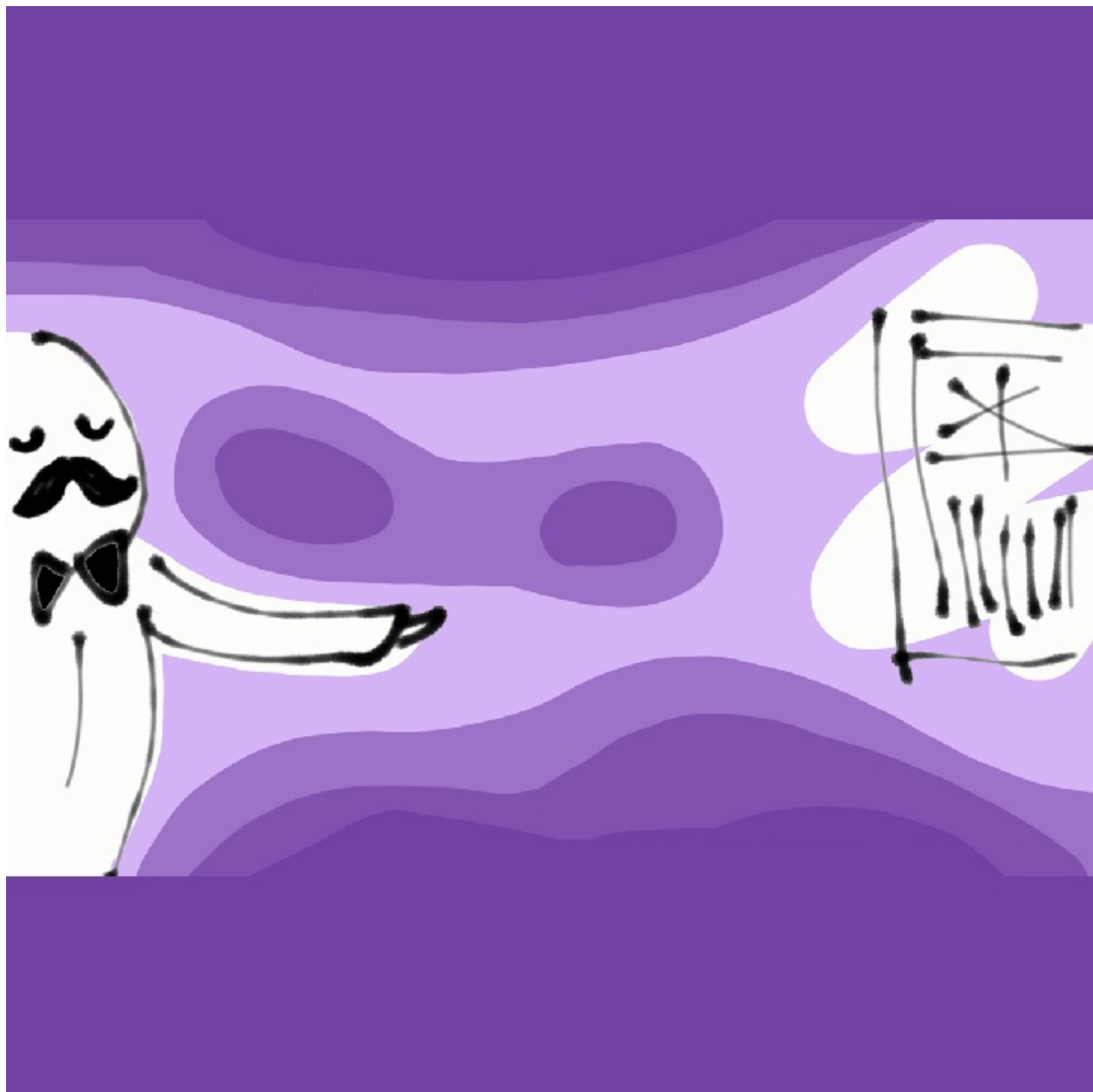
ブラックコーヒーと角砂糖をみつつ注文すると



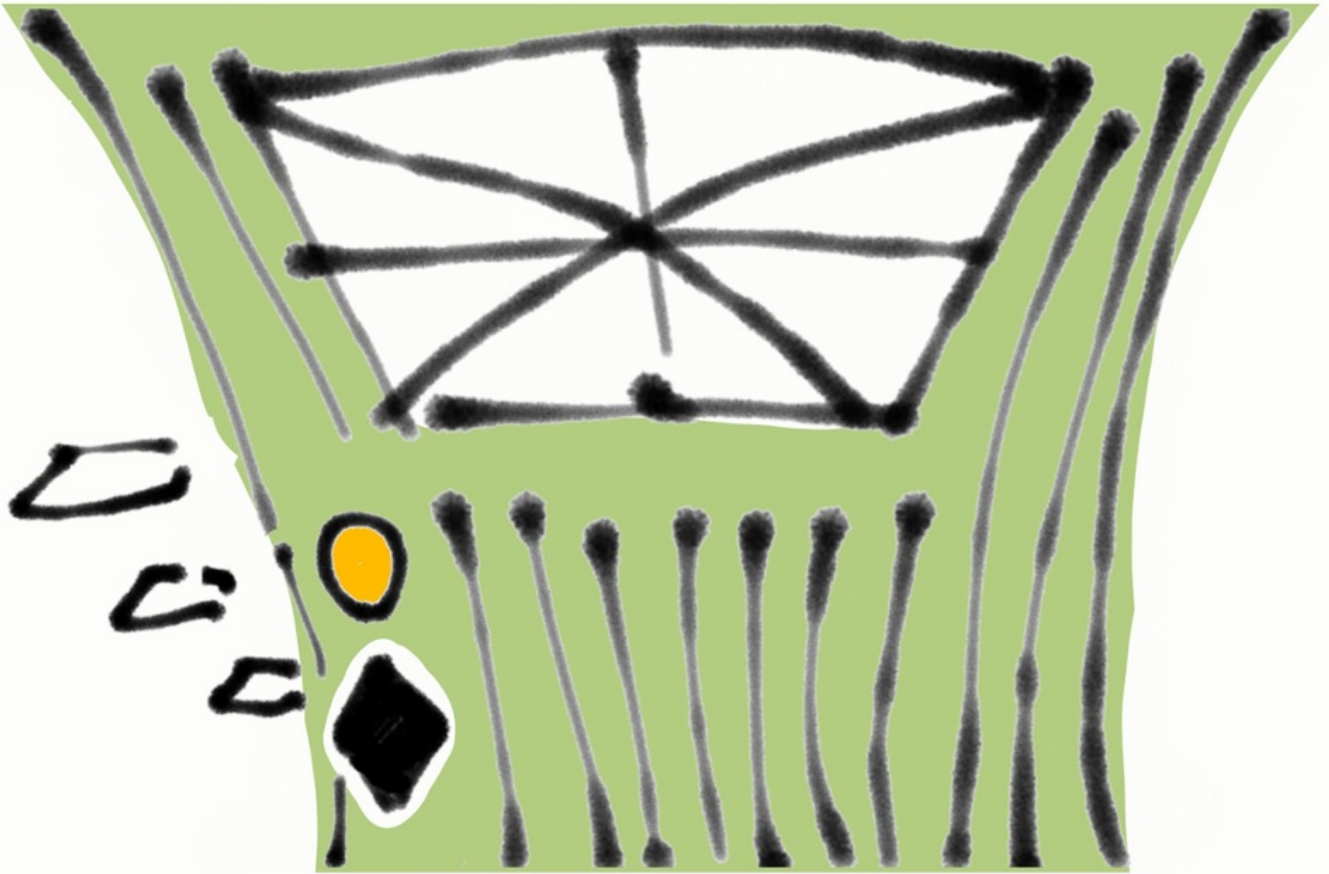
一服し、新聞も読み終わったところで



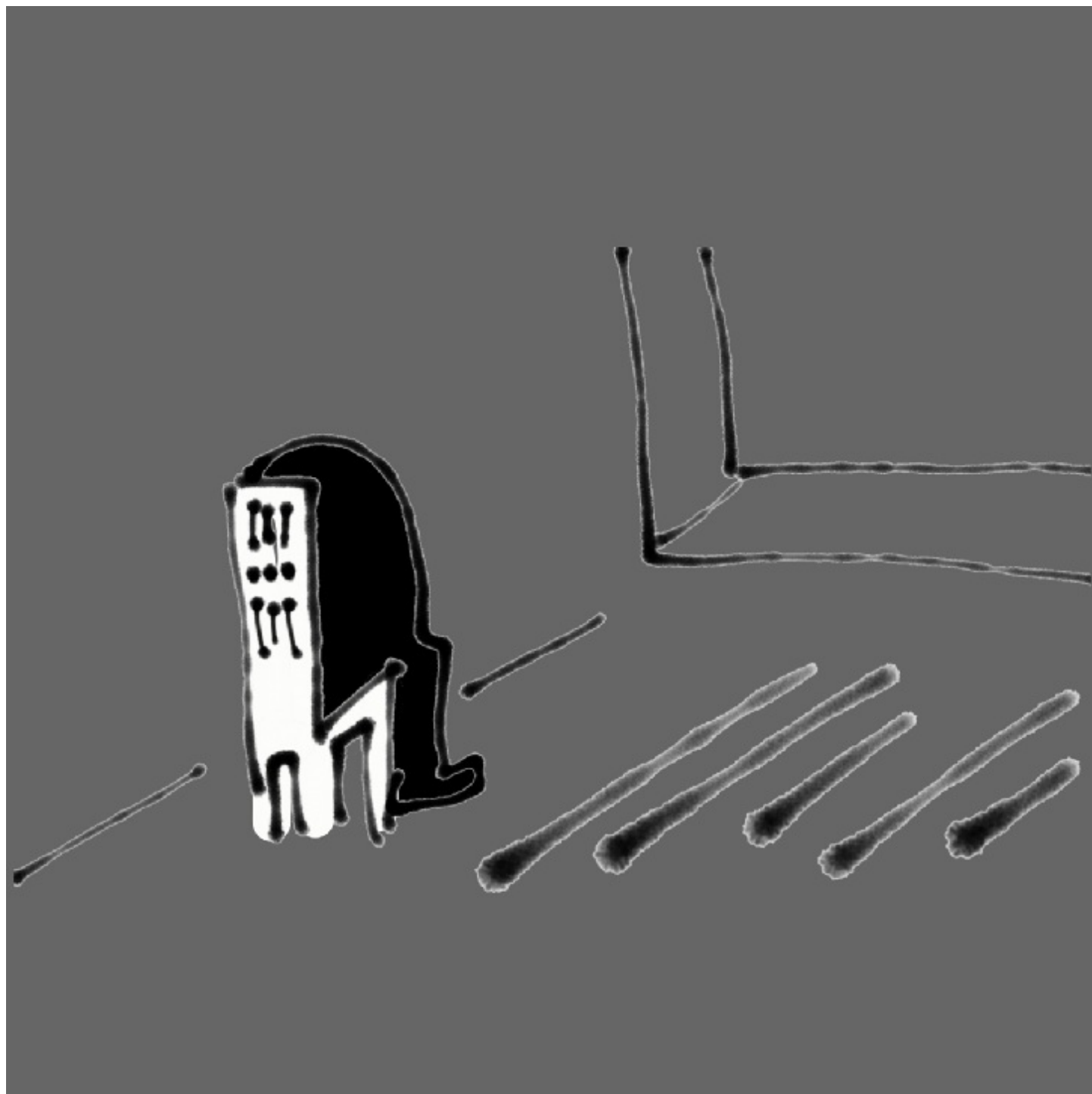
マスターは、「あちらです」と奥の扉を指す。



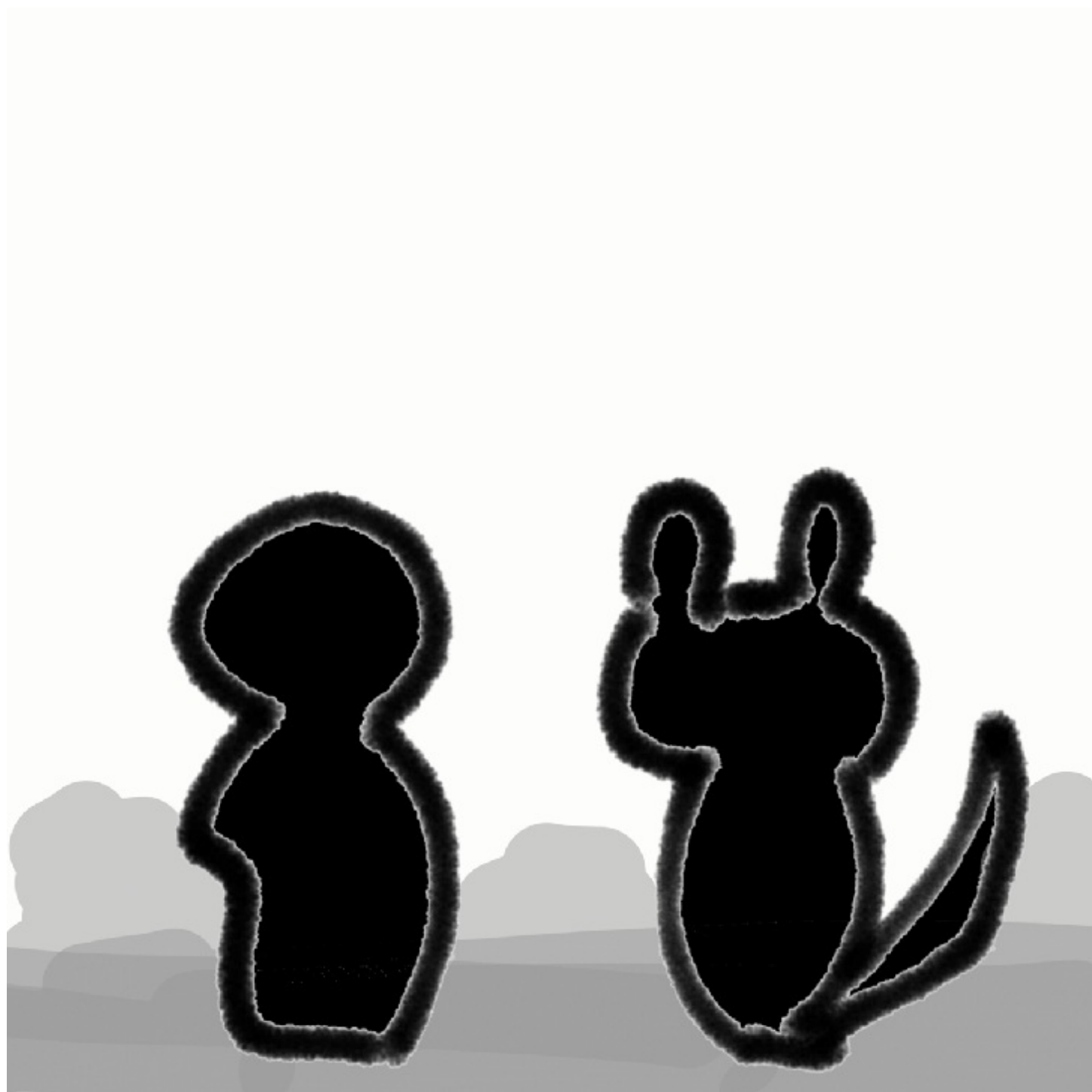
鍵穴に角砂糖をひとつ、ふたつ、みっつ入れると、扉のノブが回る。



部屋のすみには小さな影屋。



今日は先客がふたり。



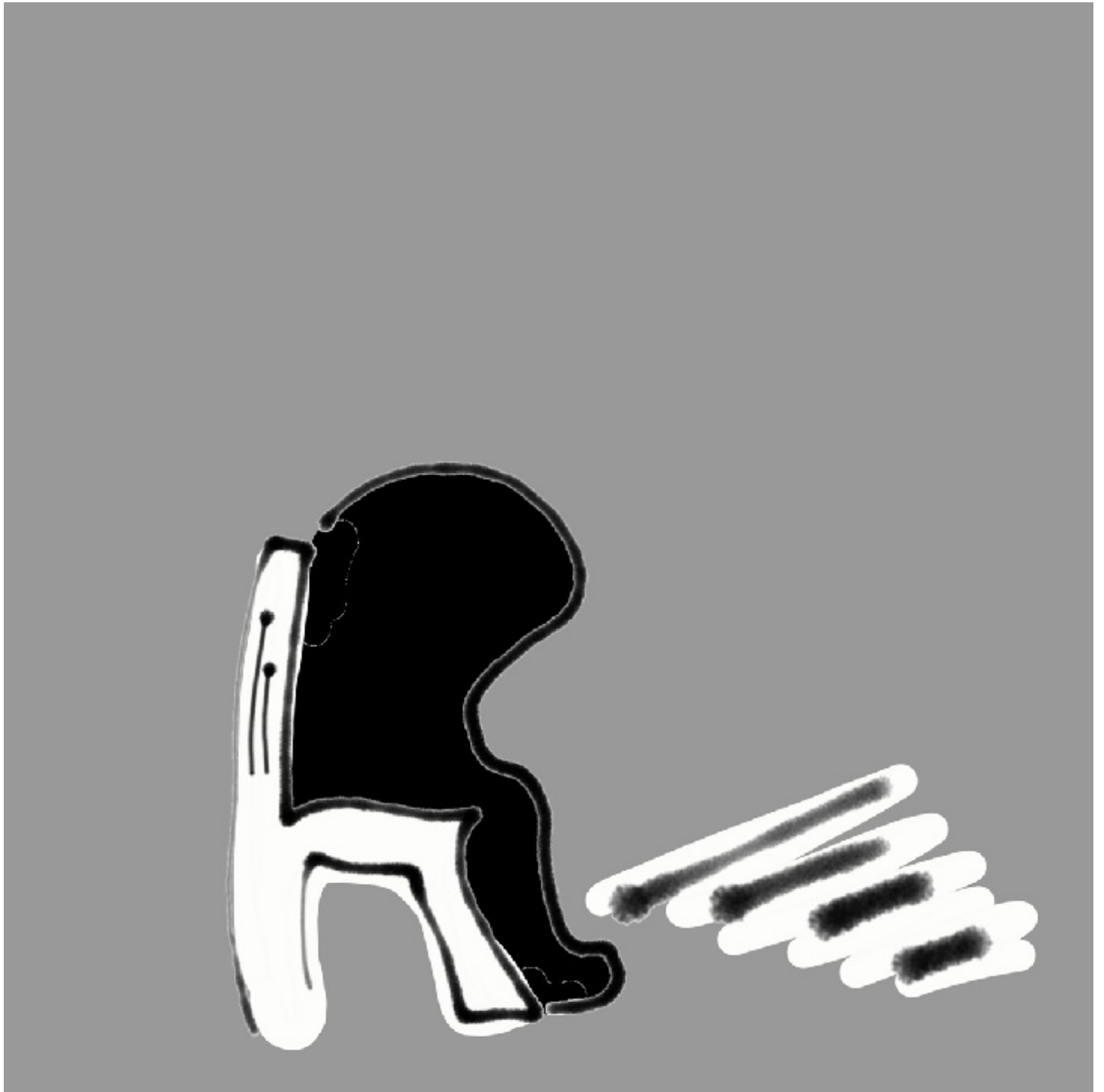




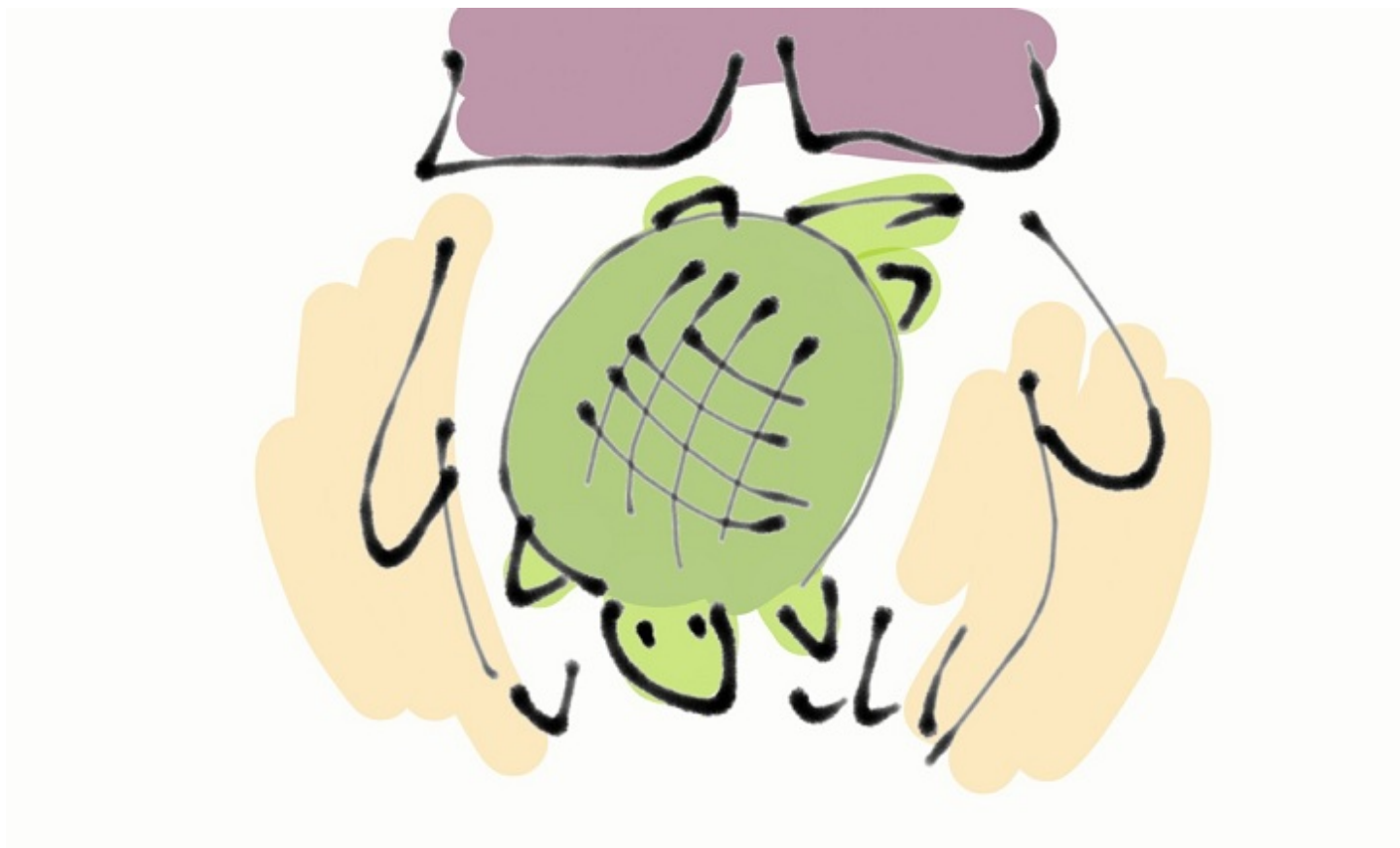
影屋は繕ったり洗ったりして元通りにする。



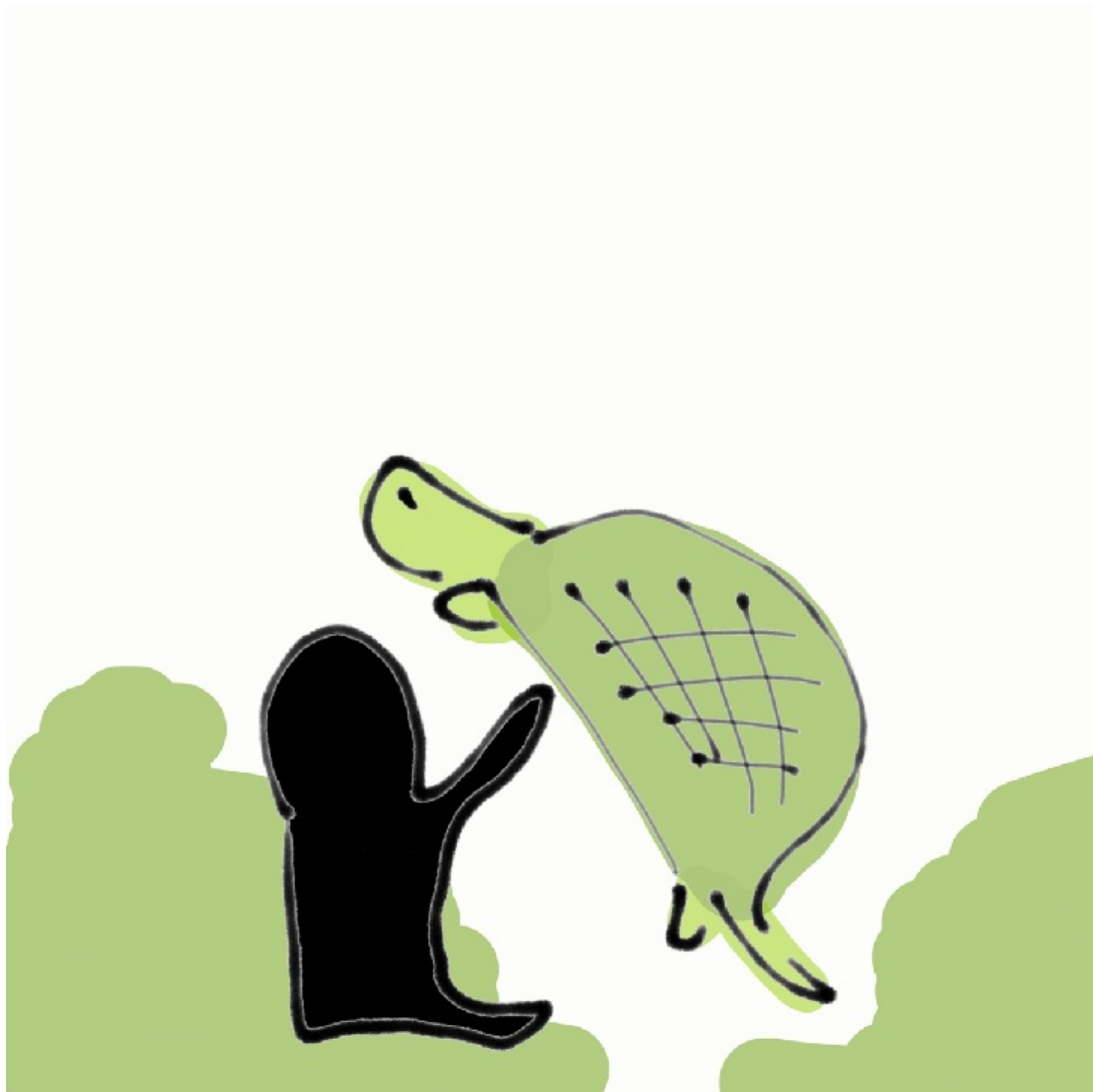
「さて、お次の方はどんなご用で？」



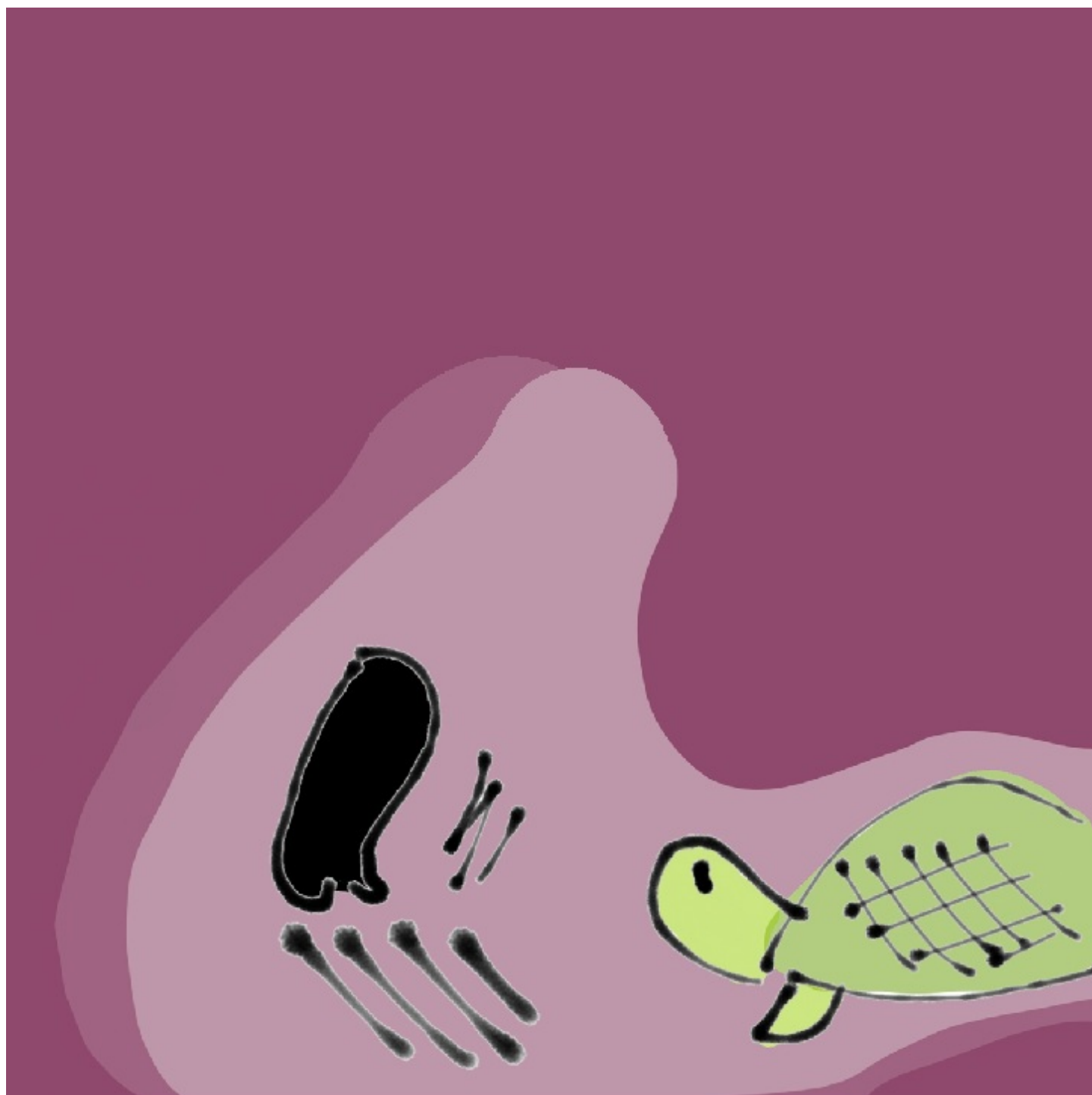
僕は、懐から丁寧にカメを取り出した。カメには、影がないんだ。



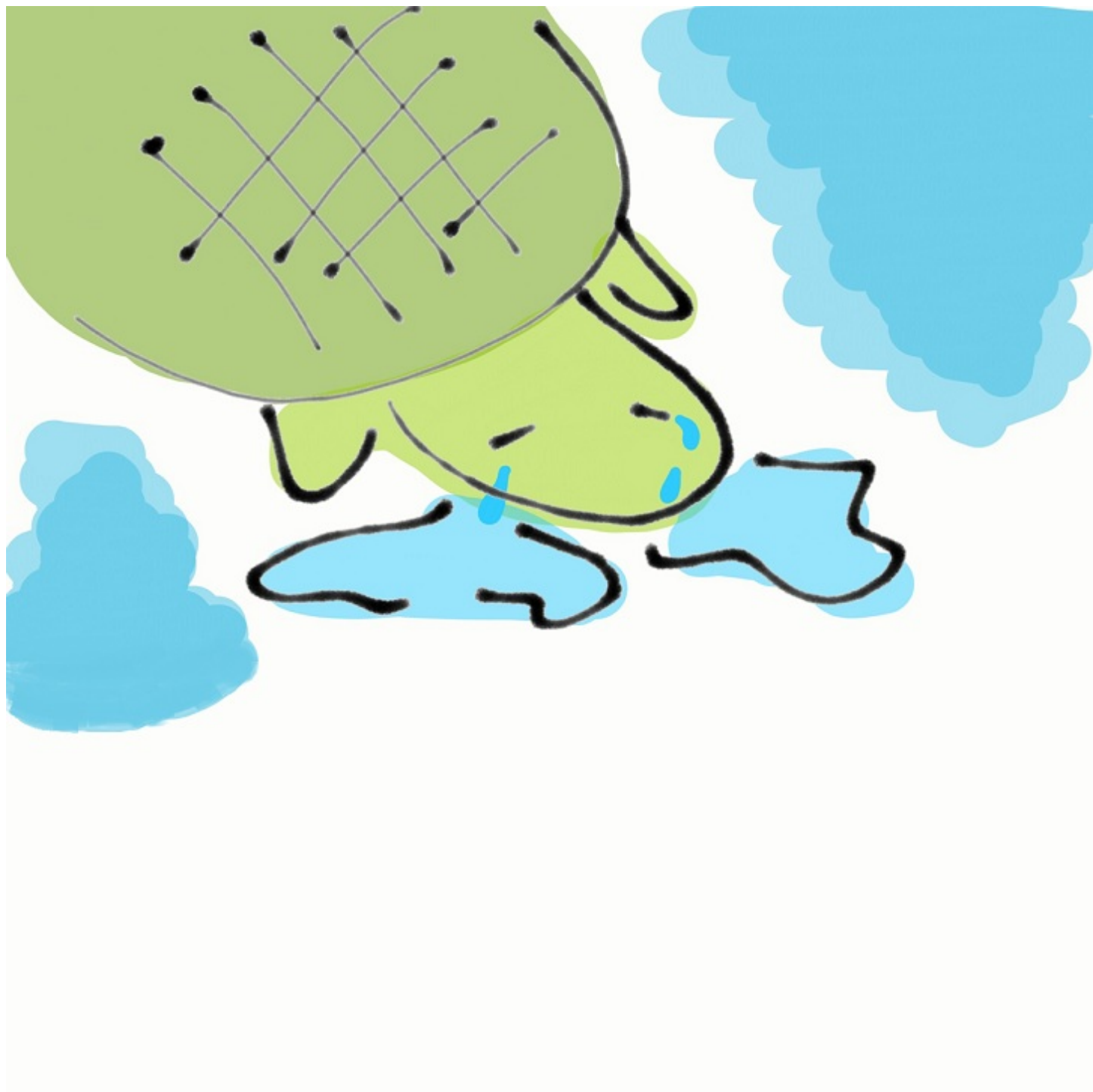
影屋は自分より大きなカメを持ち上げ、ぐるぐると回し、あちこち見た。



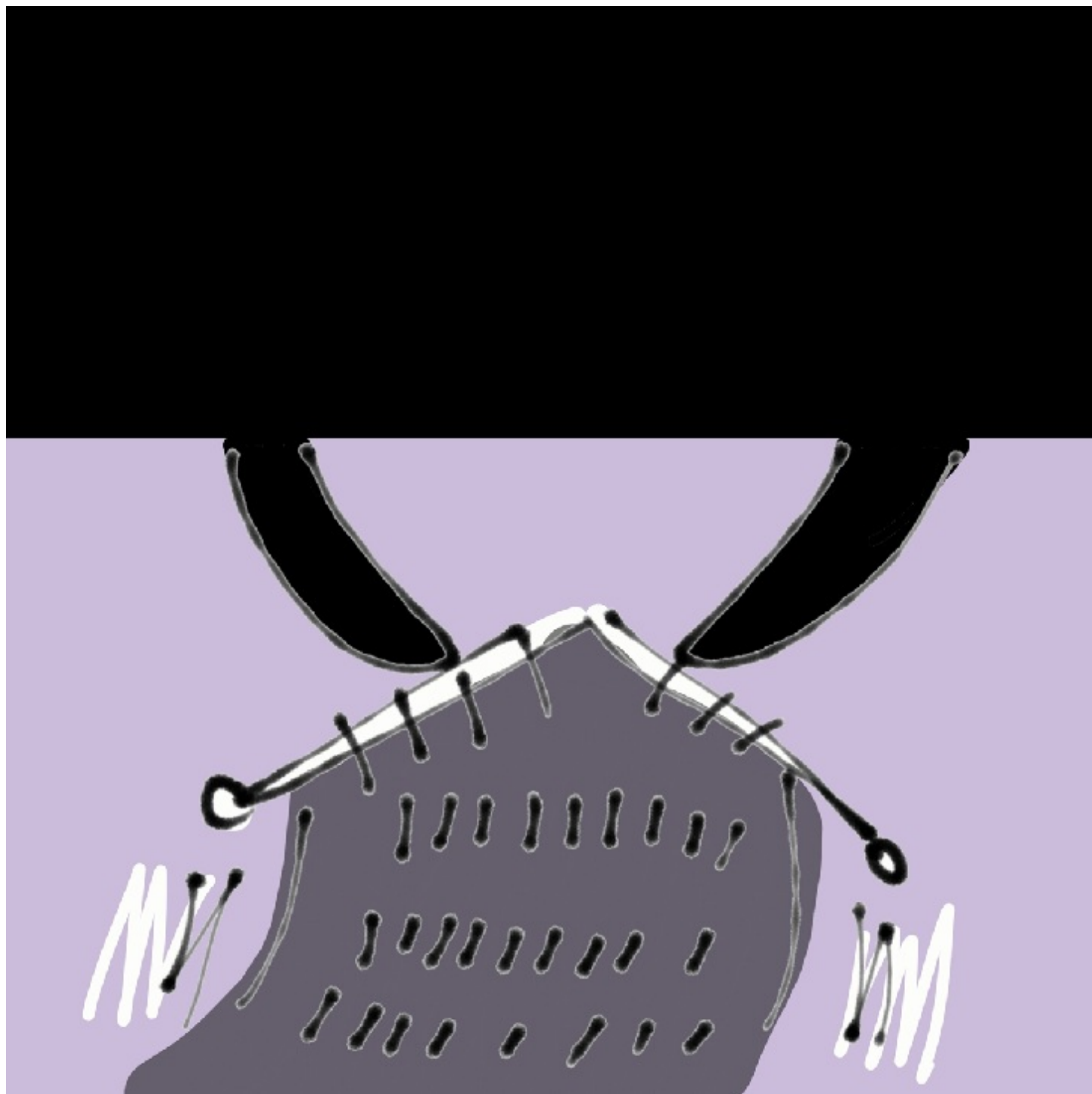
「これはいけない」影屋は言った。「この子は空想の中のカメなのさ。」



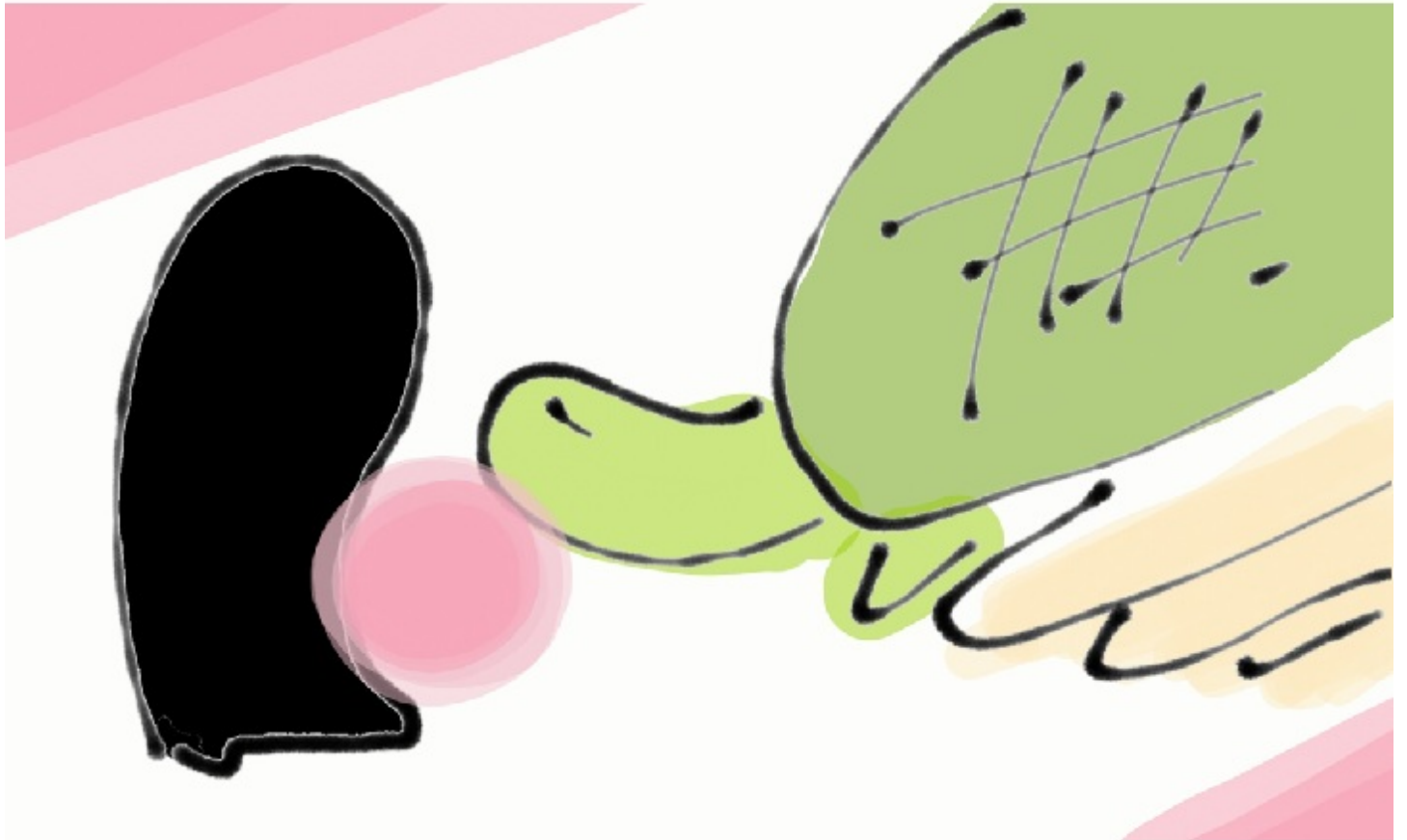
カメははらはら泣いて泣いて、小さくなっていった。



影屋は少し黙った後に、仕方がないとさらりと影を編み上げた。



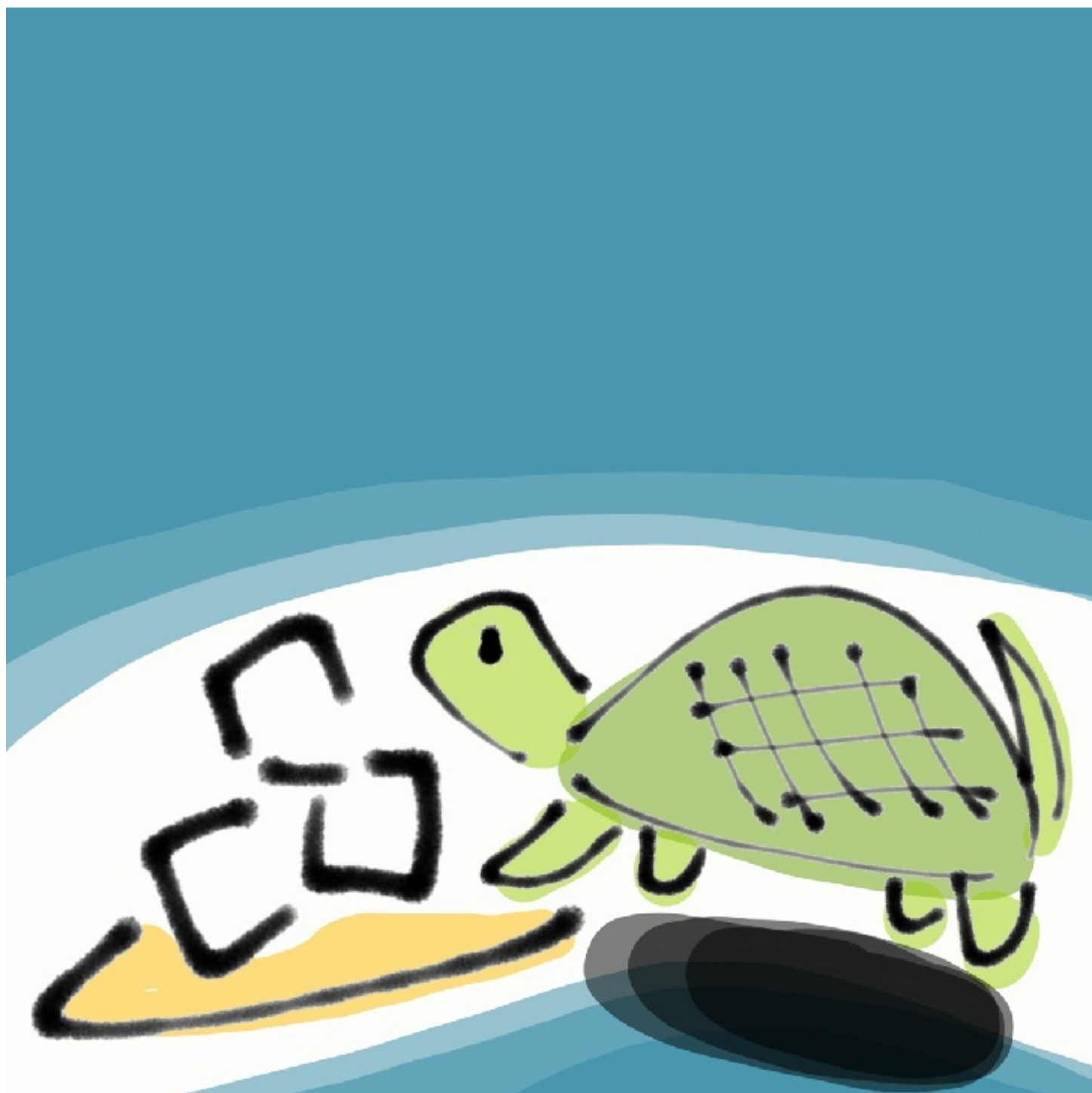
「ありがとう」「ずっとは暮らせないよ、またおいで」



それからなぜか、角砂糖の扉は開かなくなった



カメの影はこの角砂糖を食べると、ひときわくつきりするんだ。



影屋

<http://p.booklog.jp/book/105000>

著者 : ReiKa

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/reika-223163/profile>

facebookページ : <https://www.facebook.com/reika.stickers/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/105000>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/105000>

《著者の他の作品》

「しばいむら」

<http://p.booklog.jp/book/103527>

「ほんのむし」

<http://p.booklog.jp/book/103528/>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ